

立少に泊まって

「立山ジョイフレンド」で チームワーク力 を育ててみませんか

少年期(小学校中～高学年)から青年期(中学生～大学生)、社会人向け
目的を明確にしたチームビルディング型体験

- ◎「コミュニケーション力」「団結力」を育てたい！
- ◎「楽しい」だけでなく「成長」を促したい！
- ◎学校・団体の「目標」と重なった活動にしたい！



これからの時代を生きる子どもたちに必要なのが、「チームをつくる力」と言われています。正解のない課題に対し、仲間をつくり、仲間と対話や協働を繰り返しながら、最適解を見出し、問題解決をする力が求められているのです。「立山ジョイフレンド」は、問題発見から、課題の設定、課題解決のプランニングからアクション、そして振り返りという問題解決に必須のプロセスを、主体的に取り組むことによって必要な能力を身に付けることができる優れたプログラムとなっています。

上越教育大学 教職大学院教授 赤坂真二

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立立山青少年自然の家

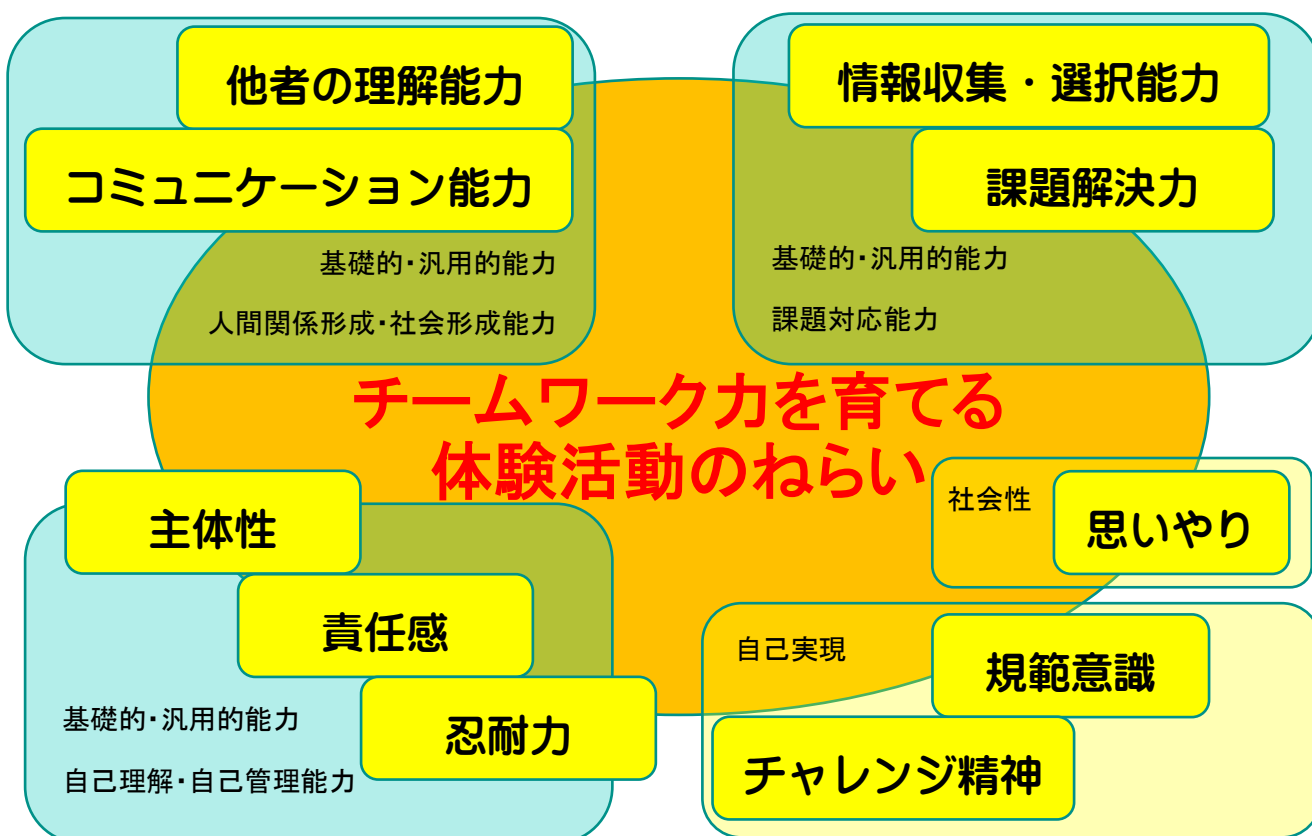
目次

- 1 何をねらった取組ですか？
- 2 具体的にどう進めるのですか？
- 3 活用のしかたはどのようにすればいいですか？
- 4 立山ジョイフレンドの活動紹介



1 何をねらった取組ですか？

国立立山青少年自然の家では、集団のチームワーク力を育てる体験活動としてふさわしいねらい(目標)を以下の10個に絞り込みました。そのことによって、集団のチームワーク力・コミュニケーション力の側面をもれなく分析し、重点的かつ効果的に育成しようとする試みです。



上の10の側面から、指導者または参加者アンケート集計によって集団の分析を行い、体験活動にふさわしいねらい(目標)を1～3個に絞り、選択します。そして、体験前・体験中・体験後のねらいとして掲げ、集団のチームワーク力を育成する側面を強めます。

実態把握と 育てたい力の精選

- 指導者の集団診断リスト
- 参加者（児童生徒）アンケート
- 学校・学年・学級目標との関連づけ

「立山ジョイフレンド」の ねらいを決定

- 参加者に指導者の思いを伝える
- 事前に話し合いをして参加者（児童生徒）の意識を高める
- 活動中に、ねらいを確かめ、適宜、評価して伝える

ねらいに近づいたか を見る振り返り

- 設定したねらいに対応した振り返りの項目の設定
- 事後の活動に生かせる記述を導く質問

この取組の背景は以下の3点です。

①子どもたちの体験活動を減らさないでほしい

「平成28年度 文部科学白書」において「青少年の体験活動の意義・効果」が次のように報告されています。「**体験活動は、** 幼少期から青年期まで、多くの人と関わりながら体験を積み重ねることにより、**『社会を生き抜く力』として必要となる基礎的な能力を養う効果がある**」というこの報告に従って、**人との関わりを促す体験活動を仕組みば、大きな教育効果が得られる**という考えに基づいてこの取組を設定しました。

②ねらい（目的）をしっかりと決めた体験活動にしてほしい

平成19年中央教育審議会答申において、「体験活動は、何らかの学習が行われることを目的として、体験する者に対して意図的・計画的に提供されるもの」とされており、「教育的な目的・効果を考慮して体験活動を進めること」とあります。つまり、**体験活動とは、指導者が、子どもたちを意図的・計画的にねらい（目指す姿）に近づける一種の道具**と言えます。そのため、ねらい（目的）を精選することは、効果的な体験活動を仕組む上で必要不可欠です。そのための手助けになるのが、この取組です。

③指導者は、子どもたちをより「ねらい」に近づける工夫をしてほしい

子どもたちを、より効果的に「ねらい」に近づけるには、4つの方法があります。1つ目は、「ねらい」を子どもたち（体験者）にしっかりと明示する。2つ目は、指導者が子どもたちの実態に応じた体験活動の内容と流れを構成する。3つ目は、**活動中に、どのような点が「ねらい」に「ふさわしい・ふさわしくない」という評価を指導者と子どもたちで共有する（指導と評価の一体化）**。4つ目は、**活動後に振り返りをしっかり行い、今後の諸活動の反省点としたり、励みにしたりして、継続した教育的取組の一部であることを確認する。**

このように、体験活動の実施に向けて、各団体の指導者が、意図的・計画的に「ねらい」を設定し、「ねらい」に導く工夫を施すことができる仕組みにしたのがこの取組の「立山ジョイフレンド」です。子どもたちが、体験活動を通して指導者の意図や計画に従って変容していくことができれば、青少年教育における体験活動が減ることはないでしょう。

2 具体的にどう進めるのですか？

立山ジョイフレンドは、基本的に4つの段階に分かれて構成されています。①集団診断、②「ねらい」の設定、③活動の構成と配慮、④評価（振り返り）と評価活用、の4種類です。それぞれの段階で、指導者の意向や思いによって自由に変更が可能です。※このシステムは基本的に本所職員と相談しながら構築していく形をとります

集団診断

- ・集団（学級）診断シートの11の質問肢に1～4のレベルで☑をする。
- ・診断結果表示ボタンを押して、集団（学級）の傾向を確認し、「立山ジョイフレンド」を通して育成したい「ねらい」の例を確認する。

「ねらい」の設定

- ・表示された「ねらい」の内、自校の重点課題に対応しそうな「ねらい」、または、指導者の思いや願いに沿う「ねらい」を選び、☑をする。※3つ以内

活動の構成と配慮

- ・ねらいの伝え方を考え、「立山ジョイフレンド」のプログラムの構成（順番・組み合わせ）を工夫する。
- ・指導者1人対集団全体や1人対1人、3人グループ、6～10人グループ、集団全体といった集団構成の流し方を構想する。

評価

- ・参加者は、自己評価用紙を活動後に記入する。
- ・指導者は、ねらいにふさわしい参加者の記述を拾い上げて称賛する。
- ・今回設定したねらいが道徳（22項目）や学校や団体の重点課題と関連する場合、今回の体験（または自己評価の記述）を素材にして今後の活動に役立てる。

「立山ジョイフレンド」活用の流れ



① 集団診断

「立山ジョイフレンド」を体験する集団(学級)の特性を診断するシートのチェック欄にチェック図を入れます。

個人診断シート

	集団(学級)傾向判断質問肢	低←評価→高				必要な能力
1	あなたは、物事を決めるとき、他の人の考えを最後までしっかり聞くことができますか。	☒ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	他者の理解能力
2	あなたは、物事を決めるとき、自分の考えをしっかりと発言することができますか。	☐ 1	☒ 2	☐ 3	☐ 4	他者の理解能力
3	あなたは、活動するときは、あいさつや返事をしっかりとし、自分の考えや感謝の言葉を声に出して伝えていきますか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	コミュニケーション能力
4	あなたは、みんなのために役立つことを、自分で見付けて行動できていますか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	主体性
5	あなたは、与えられた役割を、最後まで責任をもってやり遂げていますか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	責任感
6	あなたは、苦しくても互いに元気になる声かけをしたり、励ましたりすることができますか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	忍耐力
7	あなたは、課題に対して、ふさふさしいと思われる方法をいくつか考え、互いに納得できる方法で決めようとしていますか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	情報収集・情報選択能力
8	あなたは、活動の中での問題点を自分たちで見付け、自分たちの力で解決しようとしていますか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	課題解決力
9	あなたは、決められたルールに従い、周りの人のことを考えて行動できていますか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	規範意識
10	あなたは、ちょっとがんばればできそうなこと、自分やみんなにとってよりよいことに進んで挑戦しようとしていますか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	チャレンジ精神
11	あなたは、相手の気持ちを考えて話したり、行動したりして、互いに気持ちよく活動しようと思えていますか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	思いやり

② 「ねらい」の設定

集団診断シートの結果として、得点の高い項目は「優れている面」として、得点の低い項目は「不得意とする面」として分類されて表示されます。そこで表示された「ねらい」の中から、自校の重点課題に対応しそうな「ねらい」、または、指導者の思いや願いを加味した「ねらい」を見付けて、リストから本活動にふさわしい「ねらい」を1～3個、最終決定します(「最終決定」欄にチェック図を入れる)。

あなたの集団が優れている側面は？

ねらい No	野外活動のねらい「下位能力」	想定されるねらいの具体的な内容	最終決定
12	コミュニケーション能力	あいさつ、返事、かけ声、気持ち、考え等を声にして発し、他者と積極的に交流することができる。	☐
13	主体性	活動の中で自分の役割を見付け、進んで取り組むことができる。	☐
16	情報収集・情報選択能力	目的の達成に向けて、様々な情報を集め、いくつかの選択肢について比べたり、よりよい方法を選んだりすることができる。	☐
17	課題解決力	よりよい集団づくりに向けて、自ら課題を見付け、解決しようすることができる。	☐

あなたの集団が不得意とする側面は？

ねらい No	野外活動のねらい「下位能力」	想定される具体的なねらい	最終決定
15	忍耐力	困難な場面でも自己の気持ちを調整し、前向きな発言をしたり、行動をとったりすることができる。	☐
23	思いやり	いろいろな人に対して思いやりの心をもって接し、共に活動をするを通して、よりよい集団づくりに貢献することができる。	☐
11	他者の理解能力	自分と他者とは、考えや立場、感情に違いがあることを認め、その上で他者を尊重することができる。	☐
14	責任感	自分の役割を自覚し、最後まで責任をもって取り組むことができる。	☐

③活動の構成と配慮を作成

〇〇小学校活動計画指導案

学校名		利用日		所要時間	
「診断結果」シートの最終決定でチェックされた項目(行)の「活動のねらい(下位項目)」が自動入力される		「診断結果」シートの最終決定でチェックされた項目(行)の「想定されるねらいの具体的な内容」が自動入力される		「活動のねらい」シートの表を参照して、「診断結果」シートの最終決定でチェックされた項目(行)のねらいNoに対応した「子どもに提示するねらいの具体例」が自動入力される	
ねらいNo	選んだねらいの内	教師のねらい	子供に提示する具体のねらい		
11	自他理解	自分の特性、特徴[好き嫌い]を理解したり、他者の感情を理解したりする。	ものごとを決めるとき、他の人の意見をしっかり聞いて、自分の意見を言う		
22	自然理解	自然に関する知識やその関連性、重要性を学ぶことを通して、自然に対する理解を深め、日常生活における環境保全や自然愛護への積極的な態度を培ったり、生物としての人間の内的しくみや生命の尊さを学んだりする。	自然のしくみを知ったり、大切だなと思うことを見つけたりしよう		
26	自主性、自己有用感	自分のことは自分でしたり、みんなのために作業したり活動したりすることを通して、自分が役に立ったことへの満足感や充実感を味わう。	例えつらくても、自分のため、みんなのためにできることを自分からしよう		
ねらいNo	活動No	活動内容	指導者の働きかけ	場所 & 時間	留意点
11	11	とのりの隣のだれだれ 輪になり、1番目の人が自己紹介。2番目の人は1番目の「〇〇さんの隣の〇〇」。その次の人は、「〇〇さんの隣の〇〇さんの隣の〇〇」というようにだんだん数が増えていく。 「具体的活動」シートのアクティビティ名 「具体的活動」シートの内 容 (概 略)	うまくいかない時は、まず、みんなの考えや気持ちを聞いてみよう。話し合って助け合う方法や盛り上げる方法を工夫しよう。 「活動のねらい」シートの教師の働きかけ		
上の3つの「ねらいNo」がプルダウンリストで選択可能になり、選ぶと左(B列)の「ねらい」欄に「選んだねらいの内容」が表示される 「具体的活動一覧」シートの表を参照して、「採用チェック」にチェックした活動Noがプルダウンリストで選択可能になり、選ぶと右(EFG列)の「活動内容」欄に「アクティビティ名」、その下に「内容」が表示される 青は「診断結果」シートのチェック項目に従って自動入力されるセル 橙は利用者が直接入力するセル 緑はリストから選択するセル					

水色は自動入力されるスペースです。緑は、プルダウンリストから番号を選ぶスペースです。橙色は直接入力するスペースです。この活動指導案は、②の段階で「ねらい」を決定した時点で上段のねらいのスペースが自動表示されます。中段以下の「活動内容」の欄では、②で決定したねらいの中のどれか1つを番号で選んだり、「活動No」の欄では下図の「具体的活動一覧」からふさわしい活動を選んだりします。(ねらいに応じて活動候補がリストアップされます。)

具体的活動一覧

2019/8/7

活動No	ステッ プ	フィールド In:屋内 Out:野外 (S.M.L:大きさ)	アクティビティ名	内 容 (概 略)	必要物品	対象人数	時間	備考
1	3	In(S) Out(S)	インパルス	集団が全員で手を握る。その輪にFTが入り、片方の手をぎゅっと握る。握られた人は反対の手を握り、握る行為をどんどん伝えていく。早く伝わった集団が勝ち。	なし	5人～多数	3～5分	活動資料集参照
2	3	In(S) Out(S)	ワープスピード	1つのボールを重複なく順番に全員にパスしていく。順番を守り、必ず全員が触るというルールに従って、できるだけ速くボールを回しきる。	ボール	165～10人程度	5～10分	活動資料集参照
3	3	In(S) Out(S)	スタンドアップ	全員が輪になって、足を動かさずに手をつないだり、腕を組んだりして一斉に立つ	運動着	2～40人	3～5分	活動資料集参照
4	3	In(M) Out(S)	人間知恵の輪	グループが輪になって内側を向いて正対する。全員が内向きに手を伸ばし、右手と左手が違う人になるように手をつなぐ。そして、手を離さずに1つの輪にする。	運動着	165～20人程度(多数人可能)	5～10分	活動資料集参照
5	3	In(M) Out(S)	ヒューマンチェアー	グループが輪になって、進行方向に直立する。全員が後ろの人のヒザの上に座る。座ることができたら、背もたれを倒す状態で、全員が天井を向く状態になる。	運動着	165～20人程度(多数人可能)	5～10分	活動資料集参照
6	3	In(M) Out(S)	サークルさ～来る	集団が全員で手をつなぎ、フラフープを1つ、つないだ手の間に通す。手を離さずにフラフープをどんどん送って行き、もとの場所に戻ったら終わり。	運動着	165～20人程度(多数人可能)	5～10分	活動資料集参照
7	3	In(M) Out(S)	くじらの潮吹き	ブルーシートを数人で引っ張って中に張り、シートの上にボールを置き、みんなでシートを引っ張って2m以上放り上げる。できたらだんだん数を増やしていく。	運動着	165～10人程度	5～10分	活動資料集参照
8	4	In(M) Out(S)	マシュマロリバー	8m間隔の平行線を引き、踏み石用マットを人数分用意。片岸からスタートし、踏み石に乗って向こう岸に全員わたる。ただし、その踏み石は必ず足か手で押さえてないと流される。班員どうしも川の上では必ず体の一部が触れていないと流される。石が流されず、全員が向こう岸へ渡りきったらクリア。	20cm×20cmマット 人数分	165～10人程度	10～20分	活動資料集参照

④評価

自己評価用紙は、②で最終決定したねらいに対応して自動的に作成されます。指導者は、ねらいにふさわしい参加者の記述を拾い上げて称賛したり、集計して今後の活動に活用したりします。

「立山ジョイフレンド」振り返りシート			
学校 年 組 番 氏名			
ねらい	質問No	質問 内 容	
活動の中で自分の役割を見付け、進んで取り組むことができる。	1	自分のやるべき役割を自分で見つけられましたか。	
	答え		
	2	どんな役割をどんな理由で見付け、実行してみてどう思いましたか。	
	答え		
積極的に新しいことに挑戦し、自分のよさを伸ばそうとすることができる。	3	この活動で、自分やみんなにとって新しいことやより良いことにチャレンジすることができましたか。	
	答え		
	4	この活動で、どんなことにチャレンジしましたか。チャレンジしてどんなことを思いましたか。	
	答え		

※今回、②の「最終決定」の欄のチェックから、「ねらい」や「指導者の働きかけ」、「振り返りの質問肢」が自動で抽出されていますが、その抽出の元となる表が、資料の「集団を育てる体験活動の目標例」です。

3 活用のしかたはどのようにすればよいですか？

本来、「ねらい」や「働きかけ」、「留意点」については、団体の指導者が体験を企画するごとに設定するものです。この「立山ジョイフレンド」は、指導者が体験の構想を練る上で、「ねらい」や「働きかけ」、「留意点」がすべてあらかじめ用意されています。それらを設定する際のたたき台として活用してください。



体験を企画する主担当の方は、学級担任やグループ責任者、参加者に「集団診断シート」を実施してもらい、それを大まかに集計し、代表的な項目をチェックし、「ねらいの設定」の画面を生成してください。

生成された「ねらいの設定」画面を用いて、その中から、今回の体験で育成したい力を関係者で協議し、最大3つまでねらいを絞って設定してください。ねらいが決定したら「活動計画・指導案」の大半と「振り返りシート」の全てが自動で生成されます。

次に「具体的活動一覧」の中から、指導者が子ども達(参加者)をねらいに近づける活動としてふさわしいと考えるものを選定していきます。その際、「どの活動を選ぶか」よりは、「何をどう子ども達に働きかけるか」を重視してください。そのため、自動生成された「指導者の働きかけ」を参考にしたり、修正したりして、「留意点」をしっかりと協議して記入してください。その「留意点」についての指導者の考察が、体験活動の質を変化させます。

「振り返りシート」は、子どもたち自らが、自分達の言動が「ねらい」にふさわしい言動であったのかを考えさせたり、指導者が子ども達の言動の良い面とふさわしくない面を評価したりするためのものです。今回、設定した「ねらい」を今後の活動でも踏襲する場合、PDCA サイクルの C(チェック)過程として、子ども達と指導者で反省をしっかりと共有する時間を設定し、今後の活動において実行性のある提言(A アクション)として投げかけてください。

また、学校団体の場合、学校における道徳や各教科において、今回、設定したねらいに関連付けられそうな内容を吟味し、導入やまとめの段階において、今回の体験での「具体的な子ども達の姿」の例示として活用することが効果的です。



《資料》

集団を育てる体験活動の目標例

ねらいNo	基本出席	上位能力	下位能力例	ねらいの具体的内容例	子供に提示するねらいの具体例	診断シート質問項目	ふり返りの問いかけ例	指導者の働きかけ例(コーチング)
11		人間関係形成・社会形成能力(H28文科省)	他者の理解能力	自分と他者とは、考えや立場、感情に違いがあることを認め、その上で他者を尊重することができる。	物事を決めるとき、他の人の考えを最後までしっかり聞いて、自分の考えをもちよう。	あなたの集団は、物事を決めるとき、他の人の考えを最後までしっかり聞ける人が多い集団ですか。 あなたの集団は、物事を決めるとき、自分の考えをしっかりと発言し合うことができる集団ですか。	班で1つのことを決めるとき、他の人の考えをきちんと聞きましたか。 印象に残った他の人の考えは何でしたか、また、その時、どんな考えをもちましたか。	うまくいかない時は、「みんなの考えや気持ちを聞き取ってませんか」などの話し合う場を設定したり、「助け合う方法や盛り上げる方法を考えてみませんか」などの提案をし、互いに協議させる。
12			コミュニケーション能力*	あいさつ、返事、かけ声、気持ち、考え等を声にして発し、他者と積極的に交流することができる。	活動するときは、あいさつや返事・かけ声をしっかりとし、自分の考えや感謝の言葉を声に出して伝えよう。	あなたの集団は、活動するときは、あいさつや返事・かけ声をしっかりとし、自分の考えや感謝の言葉を声に出して伝え合える集団ですか。	『ありがとう』の感謝の言葉や『はい』『わかった』などの返事をすることができましたか。 活動中、自分の考えや気持ちをみんなに伝えたりすることができましたか。どんなことを伝えましたか。	お互いの交流が少ない時は、簡単な合言葉を提案したり、時間と場を決めて簡単なテーマで話し合わせたりして、「一人一人の思っていることを伝えよう」と提案する。
13		「キャリア教育」基礎的・汎用的能力(H28文科省) ※キャリアプランニング能力は除く	主体性	活動の中で自分の役割を見付け、進んで取り組むことができる。	みんなのために役立つことを、自分で見付けて行動しよう。	あなたの集団は、みんなのために役立つことを、自分で見付けて行動できる人が多い集団ですか。	自分のやるべき役割を自分で見つけられましたか。 どんな役割をどんな理由で見付け、実行してみようと思いましたか。	責任ある行動がとれた場合(人)とそうでない場合(人)を具体的に例示し、「この役割をする人がいなかったらどうだろう」などの問いかけをして、集団に貢献することの良さを引き出す。
14			自己理解・自己管理能力(H28文科省)	自分の役割を自覚し、最後まで責任をもって取り組むことができる。	与えられた役割は、最後まで責任をもってやり遂げよう。	あなたの集団は、与えられた役割を、最後まで責任をもってやり遂げる人が多い集団ですか。	自分のやるべき役割を最後までやり遂げられましたか。 自分のやるべきことと役割で、『最後までちゃんとやった』と思えたことはどんなことでしたか。	責任ある行動がとれた場合(人)とそうでない場合(人)を具体的に例示し、「この仕事を人がいなかったらどうだろう」などの問いかけをして、集団に貢献することの良さを引き出す。
15			忍耐力*	困難な場面でも自己の気持ちを調整し、前向きな発言をしたり、行動をとったりすることができる。	苦しくてもみんなが元気になる声かけをしたり、励ましたりしよう。	あなたの集団は、苦しくても互いに元気になる声かけをしたり、励ましたりすることができる集団ですか。	人が嫌がることでも自分から進んで取り組みましたか。 一番苦しかったこと、大変だったことは何ですか。また、『やった』と思ったことはなんですか。	「もう少しがんばればできそうなのは何かだろう」と問いかけ、何を心がけたり、何をがんばったりすればいいのかを話させ、一人一人の心構えを引き出す。
16			情報収集・情報選択能力	目的の達成に向けて、様々な情報を集め、いくつかの選択肢について比べたり、よりよい方法を選んだりすることができる。	みんなにとってよりよい方法を考え、みんなが納得する方法を決めて活動しよう。	あなたの集団は、課題に対して、ふさわしいと思われる方法をいくつか考え、互いに納得できる方法で決めようとする集団ですか。	班で1つのことを決めるとき、みんなで考えを発表し合うことができましたか。 今回、どういう理由でどんなことを決めましたか。	自分やみんなにとってのやりがいを得るために、どんなことが最良の手立てなのかを問いかけ、具体的に何からやっていくのかを確認する。
17			課題解決力(H28文科省)	よりよい集団づくりに向けて、自ら課題を見付け、解決しようすることができる。	活動中での問題点を自分たちで見付け、みんなの力で解決しよう。	あなたの集団は、活動中での問題点を自分たちで見付け、自分たちの力で解決しようとする集団ですか。	活動の目的を達成するために、『このままではダメだ』と思ったことはありましたか。 活動の目的を達成するために、『もっと〇〇しよう』と考えたことは何でしたか。また、どんな解決策にしましたか。	課題解決が進まない時は、具体的にどんな点が問題なのかを整理して示し、最終的にどんな解決策を実行するのかを確認する。
21		自己実現	規範意識*	集団の中でのルールを理解し、自身が置かれている立場や人々への影響を考えた言動をとることができる。	決められたルールに従い、周りの人のことを考えて行動しよう。	あなたの集団は、決められたルールに従い、周りの人のことを考えて行動できる集団ですか。	周りの人のことを考えてルールを守ることができましたか。 ルールを守って、『よかった』と思ったことはどんなことでしたか。	仲間の気持ちや思いを1番に考えた時、自分が抑えなければいけない感情や行動は何か、また、どんな言動をするのがいいのかを確認する。
22		文科省学習指導要領・中教審報告書	チャレンジ精神*	積極的に新しいことに挑戦し、自分のよさを伸ばそうとすることができる。	できそうなこと、よりよいことには進んで挑戦して、自分を成長させよう。	あなたの集団は、できそうなこと、よりよいことに進んで挑戦し、互いの成長を促す集団ですか。	この活動で、自分やみんなにとって新しいことやよりよいことにチャレンジすることができましたか。 この活動で、どんなことにチャレンジしましたか。チャレンジしてどんなことを思いましたか。	自分の力や考えで活動したことを確認し、できたこととできなかったことを指摘したり、もう少しがんばればできそうだった点を導き出したり、再挑戦を促したりする。
23			社会性 思いやり *	いろいろな人に対して思いやりを持って接し、共に活動することを通して、よりよい集団づくりに貢献することができる。	相手の気持ちを考え、声をかけたり、共に行動したりして、互いに気持ちよく活動しよう。	あなたの集団は、相手の気持ちを考え、話したり、行動したりして、互いに気持ちよく活動しようとする集団ですか。	相手の気持ちを考え、話したり、活動したりしましたか。 相手の気持ちを考え、行動できたこと何ですか。また、その時、どんなことを思いましたか。	不公平や不平等を指摘したり、思いやりを忘れた行動を指摘したりして、「目的を達成するために何を1番最初にやるべきか」を問いかけ、相談を促す。

フラインドウォーク



グループで1列になり、先頭の人の指示に従ってポイントを目印に歩きます。先頭以外は、アイマスクをしながら移動するので、先頭の人を信頼しなければいけません。先頭の方は時間や距離で入れ替えましょう。

ビーム



立ち木の間に設置してある丸太をグループで協力して全員が乗り越えることができれば成功です。グループの中で体格に個人差がありますので、乗り越える順番などをグループで作戦を立てながら行う楽しさを味わえます。

ウォール



そばえ立っている「壁」をグループで協力して乗り越えるゲームです。全員が乗り越えることができれば成功です。

グループの中で体格に個人差がありますので、乗り越える順番など、グループで作戦を立てながらグループでの協力が必要なゲームです。

ターザンロープ



全員がスタート地点の「島」に乗り、木に縛りつけてあるロープを使って、別の島に全員が移動すれば成功です。「島」に移動する人が増えれば増えるほど、難易度が上がりますので、グループでの協力場面が必要となります。

詳しくは、こちら

<https://tateyama.niye.go.jp/wp/wp-content/uploads/H30-59-1.pdf>

